

基本目標 1

知恵にあふれ心豊かな人づくり

〔教育・文化〕

政策の体系

政策 11

多様な能力をはぐくみ、心豊かでたくましい 青少年を育成する

施策

- 111 学ぶ力をはぐくむ教育の充実
- 112 心の教育の推進
- 113 健康な体づくりと学校安全教育の充実
- 114 個性を生かす特色ある教育の充実
- 115 自立した青少年の育成
- 116 青少年を取り巻く環境の整備

政策 12

生きがいとうるおいに満ちた人生を実現する

施策

- 121 生涯学習の推進
- 122 県民文化の振興
- 123 県民総スポーツの推進

政策11 多様な能力をはぐくみ、心豊かでたくましい青少年を育成する

目標

持てる能力や個性を最大限に発揮して、次の時代を切り拓くことができる、自ら学び考える力を身に付けた、心身ともに健全で自立した青少年を育成する。

現状と課題

社会環境が激しく変化し、人々の価値観やライフスタイルも多様化・複雑化している中、青少年が豊かな人間性をはぐくみ、自ら学び考え、たくましく生きることができる力を身に付けることがこれまで以上に重要になっています。

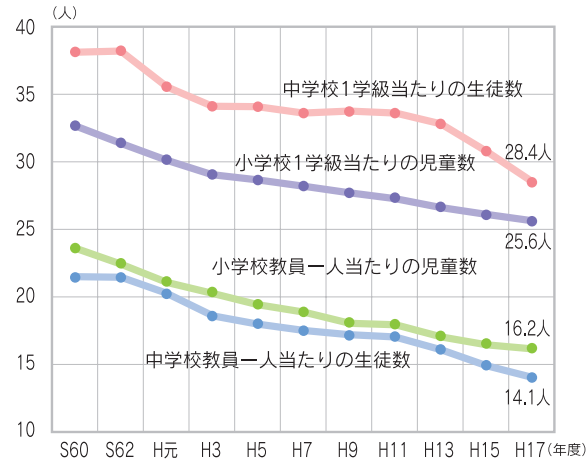
一方で、いじめや不登校等の問題は依然憂慮すべき状況にあり、また健全な青少年をはぐくむために重要な役割を果たす家庭や地域の教育力の低下が叫ばれるなど、早急に対応しなければならない課題が山積しています。

そこで、心豊かでたくましく、社会の変化に柔軟に対応できる青少年をはぐくむためには、確かな学力を身に付け、体験活動などを通じ豊かな心を培い、一人ひとりの持つ能力や個性を最大限に伸ばす教育を行うとともに、家庭・学校・職場・地域等すべての人々が連携・協力して、県民総ぐるみで青少年の健全育成に向けた環境を整えていくことが求められています。

取組の方向

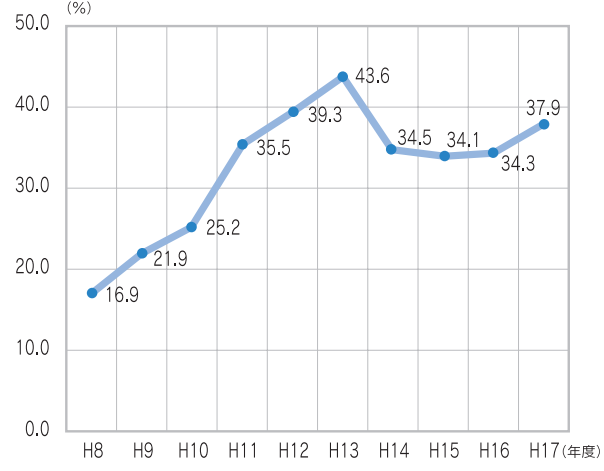
- 基礎的・基本的な学力や、自ら学び、考える力などの、学ぶ力をはぐくむ教育を充実します。
- 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識などを持てるよう心の教育を推進します。
- 健康増進と体力・運動能力の向上を推進するとともに、学校安全教育の充実を図ります。
- 多様な学習ニーズに対応した、児童生徒の個性を生かす特色ある教育を推進します。
- 主体的に行動できる自立した青少年を家庭、学校、職場、地域等県民総ぐるみで育成します。
- 青少年を健全に育成できる良好な環境を整備します。

1学級及び教員一人当たりの児童生徒数



資料：文部科学省「学校基本調査」(平成17年度)

県政への要望として「青少年の健全育成」を選択した県民



資料：県企画部「県政世論調査」

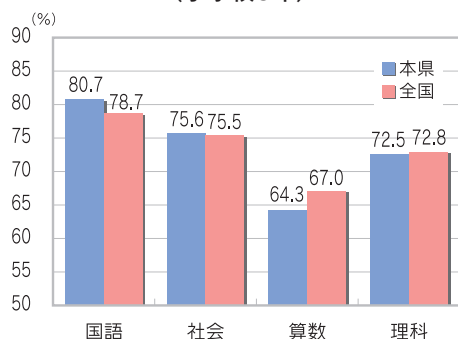
施策の目標

児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、学ぶ意欲や思考力・判断力、自ら課題を解決する能力を育成できる環境を整備します。

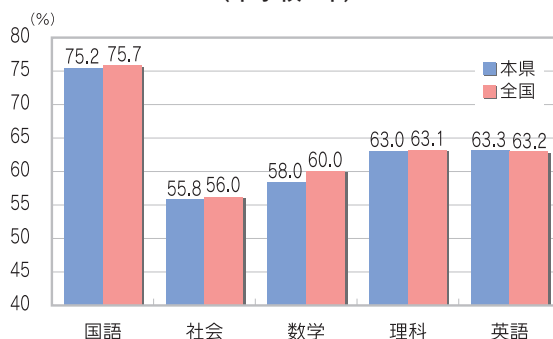
現状と課題

- 児童生徒が、自ら学び、自ら考える力などを身に付けることが重要であり、学習意欲や学力のさらなる向上が課題となっています。
- 盲・聾・養護学校在籍児の障害の多様化・重複化への対応、特殊学級在籍児の増加や通常学級に在籍する発達障害児への対応が課題となっています。
- 優れた資質能力を身に付けた教員の継続的な確保が課題となっています。
- 学校の校舎等の老朽化が進み、学習環境の面で一部に支障が出てきています。

教育課程実施状況調査における各教科の正答率 (小学校5年)



教育課程実施状況調査における各教科の正答率 (中学校2年)



資料：文部科学省「教育課程実施状況調査」(平成16年度)

施策の展開

参照：第3部 P171~P172

基礎的・基本的な学力の向上

児童生徒の興味・関心を高め、わかりやすい授業を展開するとともに、個に応じた指導を充実し、学習意欲や学力の向上を図ります。

- 少人数学級の推進
- 補充的な学習や発展的な学習の推進
- 家庭学習の習慣化の推進

特別支援教育の充実

障害のある児童生徒の自立や社会参加を促進するために、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した教育の充実を図ります。

- 発達障害児の支援のための体制整備
- 養護学校の機能強化検討

教員の資質向上と適正配置

個に応じたきめ細かな実践的指導力など、優れた資質能力を持った教員の採用・育成と、教員の適正な配置を推進します。

- 教員の初任者研修などの研修の充実
- 適正な教員評価の実施

学校施設・設備の充実

老朽化等に対応した県立学校の施設・設備の整備を進めるとともに、市町村立学校の施設整備の指導を行います。

- 県立学校の耐震化を含めた計画的な改修

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

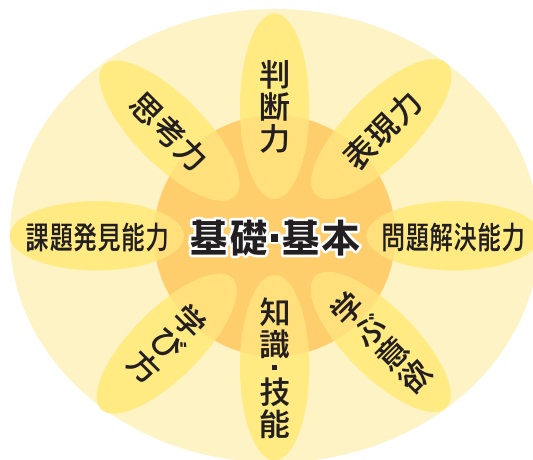
成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
授業がわかる児童生徒の割合※1 (小6・中2平均)	—	—	59.3 % (H16)	65.0 % (H22)	70.0 % (H27)
平日、学校外で1時間以上学習する生徒の割合(中2)	—	50.6 % (H13)	59.7 % (H16)	65.0 % (H22)	70.0 % (H27)
教員の長期社会体験研修※2修了者数	0人 (H6)	28人 (H11)	349人 (H16)	650人 (H22)	900人 (H27)

※1 教育課程実施状況調査で、学校の授業が「よくわかる」「だいたいわかる」と回答した児童生徒の割合

※2 社会人としての視野の拡大、人間関係づくりやリーダーシップなどの養成のため、銀行、デパート、ホテルなどの民間企業へ1年あるいは3か月の間派遣する研修

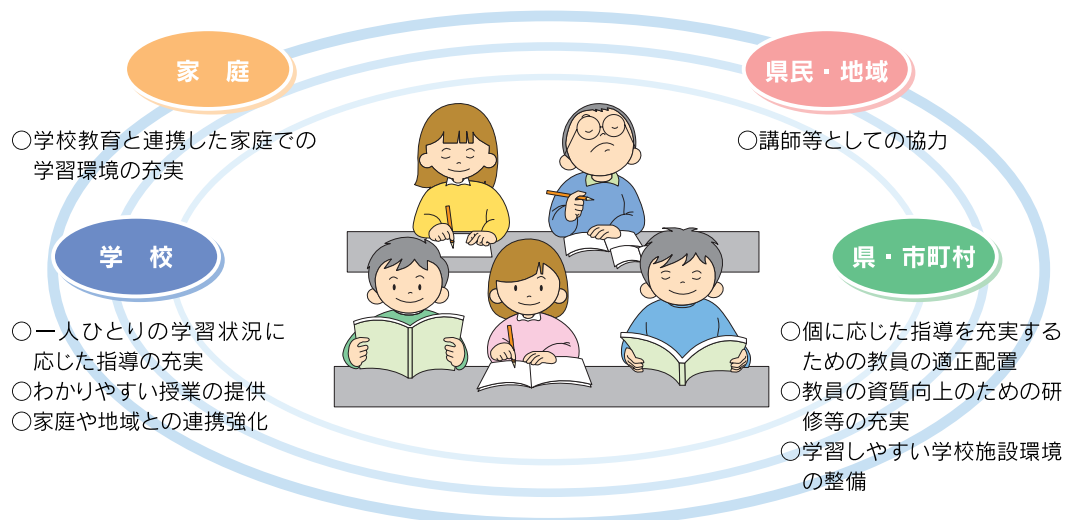


ティームティーチング (複数の教員による指導)



基礎的・基本的な学力を構成する概念図

期待される主な主体の役割



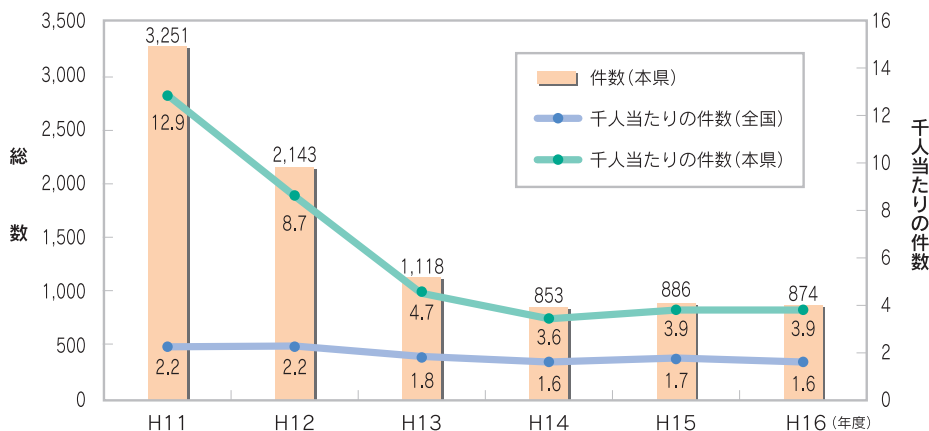
施策の目標

生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識や倫理観などの、子ども一人ひとりの豊かな人間性をはぐくみます。

現状と課題

- 児童生徒を取り巻く環境の変化に伴い、問題行動等が多様化・低年齢化している中、各学校においてはその解決に向け、積極的な取組が行われています。
- 暴力行為・いじめ・不登校の発生件数は経年的には減少傾向にありますが、全国と比較すると、本県の発生件数の割合は高い状況にあります。
- 児童生徒の豊かな人間性や社会性をはぐくむ社会体験や自然体験の機会が、十分とは言えない状況にあります。

いじめの発生件数



資料：文部科学省「児童生徒の問題行動等に関する調査」

施策の展開

参照：第3部 P172～P173

道徳教育の充実

学校の教育活動全体を通して、人間としての生き方やあり方についての道徳教育を推進し、児童生徒の規範意識や社会性、他人を思いやる心などを育てます。

- 心に響く読書教材の活用などによる道徳教育の充実

児童生徒への指導・援助の充実

学校が家庭や関係機関等と連携し、問題行動等の未然防止、早期発見、早期解消に取り組むとともに、社会的な自立を促す指導・援助を充実します。

- 「いじめ・不登校等対策チーム」による学校支援の充実
- スクールカウンセラー^{※1}などによる教育相談体制の充実

体験活動の充実

職場体験や社会奉仕活動、自然とかかわる体験など様々な社会体験活動を通して、人や社会とかかわる力を育てたり、自己の生き方を見つめさせる機会を充実します。

- 小・中・高を通じた体系的な体験活動の充実

※1 児童生徒の臨床心理に関して高度で専門的な知識・経験を有する臨床心理士などの専門家、いじめや不登校などの問題行動等について、児童生徒や保護者、教師の相談に応じ、適切な指導助言を行う者

成果指標 (施策の達成状況を見る尺度)

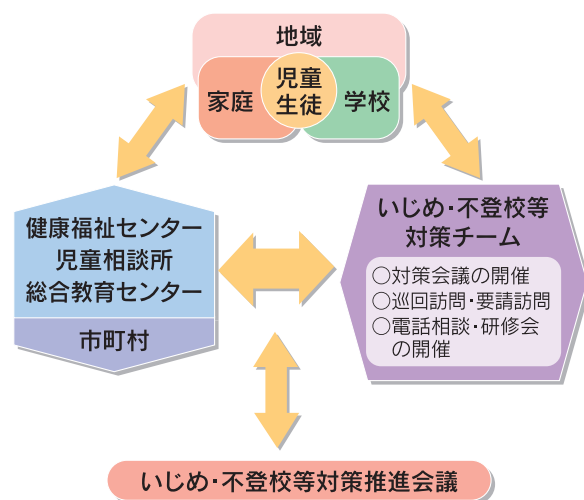
成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
児童生徒が進んであいさつできる小・中学校の割合	—	—	52.7 % (H16)	100 % (H22)	100 % (H27)
いじめ解消率	—	81.0 % (H11)	83.3 % (H16)	87.0 % (H22)	90.0 % (H27)
中学校における職場体験学習等 ^{※2} の実施校数の割合	89.7 % (H6)	96.0 % (H11)	98.3 % (H16)	100 % (H22)	100 % (H27)

※2 職場体験や社会奉仕活動、自然とかかわる体験などを通じた学習

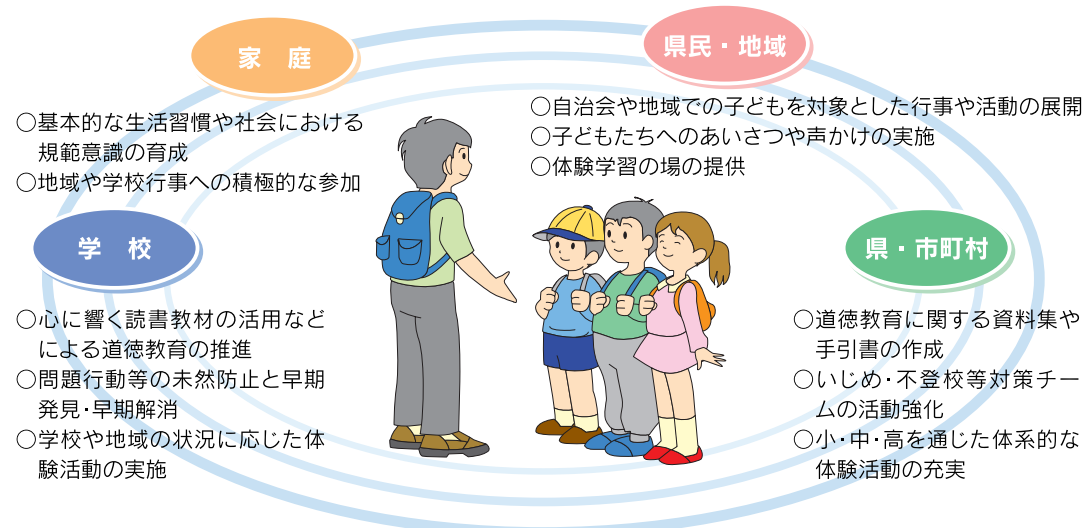


中学生の保育園での職場体験活動

いじめの根絶と不登校への適切な対応



期待される主な主体の役割



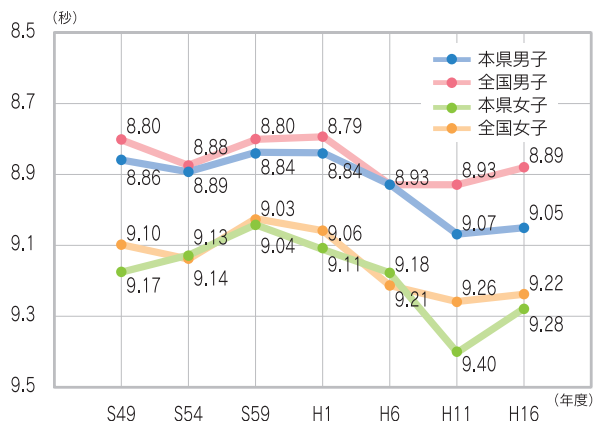
施策の目標

児童生徒の健康増進と体力・運動能力の向上を推進するとともに、学校安全教育の充実を図ります。

現状と課題

- 社会環境や生活様式等の変化に伴い、運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣が保たれていない状況や性に関する規範意識の低下が見られます。
- 本県児童生徒の体力・運動能力は、全国平均に達していない種目も見られます。
- 近年、学校及び児童生徒を取り巻く環境が悪化しており、学校内外の安全の確保が課題となっています。

50m走の年次推移と全国との比較（小6）



資料：県教育委員会「栃木県児童生徒の体力調査」

施策の展開

参照：第3部 P173～P174

健康教育の充実

児童生徒が健康に関する正しい知識を身に付け、生涯にわたり自分の健康を保持増進していくための実践力を養う健康教育の充実を図ります。

- 食に関する指導の充実
- 発達段階に応じた性教育の推進

体力の向上

児童生徒が自らの体力の現状を把握し、学校・家庭・地域において積極的に体力の向上に取り組める環境づくりを推進します。

- 発達段階に応じた体力向上策の推進

学校安全教育の充実

児童生徒の安全を確保するため、学校における防犯、防災、交通安全に関する安全教育を充実します。また併せて、犯罪・災害などに対する教職員の危機管理意識の向上と、児童生徒の安全対応能力の育成を図ります。

- 地域と連携した防犯・防災体制の確保

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
毎日朝食を食べる児童生徒の割合	—	82.5 % (H11)	82.9 % (H16)	86.8 % (H22)	90.0 % (H27)
児童生徒の体力テストにおける全国との比較 (偏差値)	—	48.9 (H11)	50.1 (H16)	50.3 (H22)	50.5 (H27)
学校安全ボランティア数	—	—	22,676 人 (H17)	31,800 人 (H22)	31,800 人 (H27)

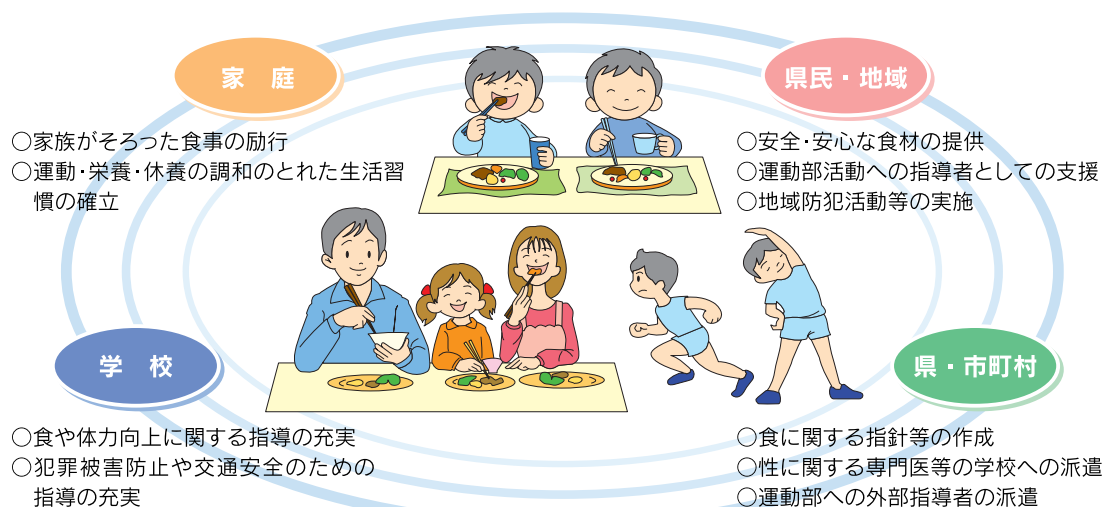


学校給食の風景



学校安全ボランティア活動

期待される主な主体の役割



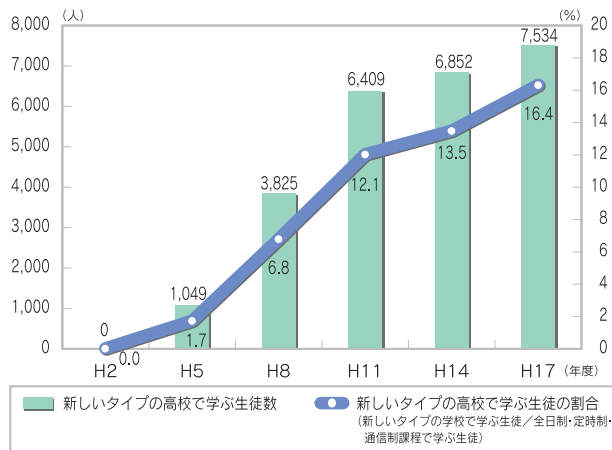
施策の目標

多様な学習ニーズに対応できる特色ある教育を推進します。

現状と課題

- 国際化や情報化の進展に伴い、外国語によるコミュニケーション能力や情報活用能力を有する人材の育成が課題となっています。
- 働くことへの関心や意欲を高める勤労体験、社会体験が十分とは言えない状況にあります。
- 将来、産業界で活躍するための実践的な経験の必要性が高まっています。
- 少子化が進行する中、多様な学習ニーズに対応できる学校づくり、また地域社会と連携したより信頼される学校づくりが課題となっています。

新しいタイプの学校で学ぶ生徒数及び割合



県教育委員会調べ

施策の展開

参照：第3部 P174～P175

国際化・情報化等社会の変化に対応した教育の充実

英語教育や情報教育などの充実を図り、外国語による実践的なコミュニケーション能力や情報活用能力を育成します。

- 外国語指導助手等の配置の充実
- 情報教育担当教員の養成

キャリア教育と産業教育の充実

児童生徒の発達段階に応じ、働くことへの関心や意欲を高め、社会人・職業人としての自立意欲を高めるキャリア教育を推進します。

専門高校と産業界や地域社会との連携を深め、実際に産業界で使われている知識・技能を学習する機会や職業に関する体験的な学習の機会を提供します。

- 勤労観・職業観を育成する学習プログラムの開発、普及
- インターンシップ^{※1}推進事業の拡充
- 科学技術高校の整備

魅力と活力ある県立学校づくり

各高校の特色化・個性化の推進や新しいタイプの学校^{※2}の設置などにより、生徒の個性を生かす多様で柔軟な魅力ある学校づくりを推進します。

- 中高一貫教育校や総合選択制高校等の設置推進
- 県立高等学校再編後期実行計画^{※3}の策定

地域の教育力を活かした学校づくり

学校外の人材を活用するなど地域社会と連携した教育活動を充実するとともに、保護者や地域の人々の参加を得ながら、信頼される学校づくりを推進します。

- 学校評価の充実
- 学校評議員制度の充実

私学教育の充実

個性や心の豊かさをはぐくみ、社会の変化に対応した教育を推進するため、魅力ある私立学校教育の充実を支援します。

- 特色ある教育の充実支援
- 教育機能の地域開放

大学等における高等教育の充実

多様化する就学・学習ニーズに対応した高等教育の充実を図るため、高等教育機関の連携を促進します。

※1 一定期間企業等の中で、自分の将来に関連のある就業体験を行う制度

※2 中高一貫教育校、総合学科高校、科学技術高校、総合産業高校、総合選択制高校、フレックス・ハイスクール

※3 「県立高等学校再編基本計画」に基づき、平成22年度からの後期5か年間に取り組む具体的な内容を示した高校再編の年度別実行計画

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
外国語指導助手等が語学指導を行っている高等学校の割合	—	84.5 % (H11)	85.7 % (H16)	100 % (H22)	100 % (H27)
新しいタイプの学校数	5 校 (H7)	9 校 (H12)	11 校 (H17)	17 校 (H22)	22 校 (H26)
インターンシップ実施生徒数の割合	—	5.6 % (H12)	32.4 % (H16)	45.0 % (H22)	45.0 % (H27)



フレックス・ハイスクール※4 (学悠館高校)

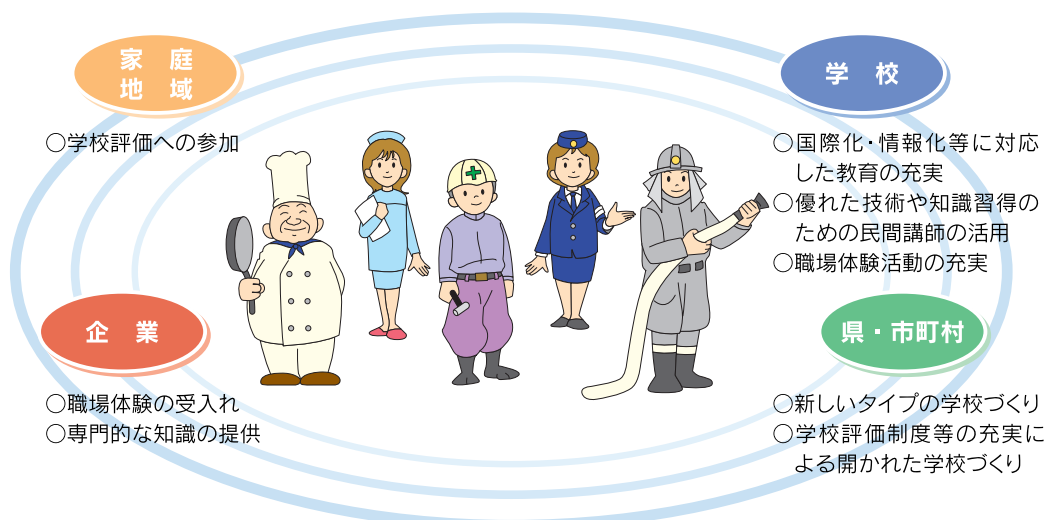
※4 午前、午後、夜間部など複数の部を設置した定時制課程や通信制課程に基づき授業を行う単位制高校を表す本県における呼称



イングリッシュ・フォーカス・ウィーク (英語キャンプ)※5

※5 中高生を対象に、1週間程度、朝から晩まで英語だけで過ごすキャンプ

期待される主な主体の役割



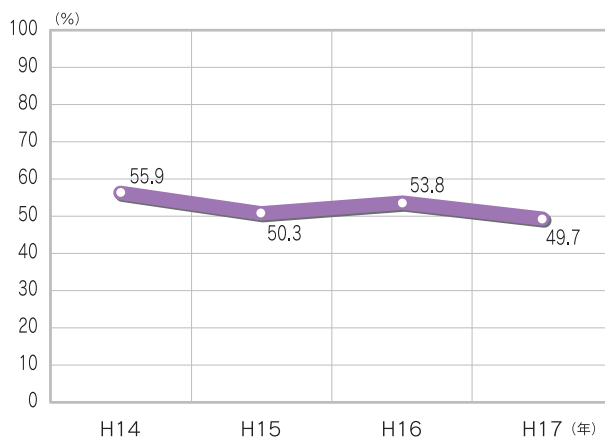
施策の目標

家庭、学校、職場、地域など県民総ぐるみで主体的に行動できる自立した青少年を育成します。

現状と課題

- 最近の青少年は、社会とのかかわりを避けがちであったり、自立心に希薄なところがうかがえます。
- 青少年の自立には、家庭、学校、職場、地域が連携・協力しながら一体的に取り組むことが必要ですが、その取組が必ずしも十分とは言えない状況にあります。
- 少子化や県民ニーズの多様化に加え、施設の老朽化などの理由から、青少年の体験活動の場としての青少年教育施設の利用状況は低迷しています。

地域や学校における青少年育成活動参加率



資料：県企画部「県政モニターアンケート」

施策の展開

参照：第3部 P176～P177

県民総ぐるみ運動の推進

すべての県民が心をひとつにして取り組む「とちぎ心のルネッサンス」運動^{※1}を展開し、県民大会の開催や啓発事業の充実などにより、青少年育成活動の活性化を図ります。

○家庭や地域での教育力の活性化事業の展開

家庭教育支援の充実

家庭教育についての学習機会の提供や普及啓発を行うとともに、家庭教育指導者の養成・活動支援や電話・メールによる相談の充実など相談体制の拡充を図ります。

地域教育機能の充実

県民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組むための地域組織の充実、青少年育成指導者の養成などを図り、地域の特性を活かした取組を推進します。

人材育成の充実

幅広い視野を身に付けた地域の青少年リーダーの育成を図るとともに、青少年教育施設の再編整備・利用促進などにより、自然体験・交流活動などの機会の充実を図ります。

○青少年教育施設の統廃合による新しいタイプの青少年教育施設の整備検討

※1 青少年自身が社会の一員としての責務を果たし、目標を高く掲げ日々努力・研鑽する心を培うとともに、県民すべてが、青少年を地域全体ではなくもうという心を取り戻し、より良い環境を構築していく取組

栃木県、栃木県教育委員会、栃木県警察本部、(財)とちぎ青少年子ども財団が主唱し、平成15年7月の運動推進県民大会からスタートした。

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
「とちぎ心のルネッサンス」運動年間行動計画※ ² 策定数	—	—	153件 (H16)	300件 (H22)	600件 (H27)
家庭教育オピニオンリーダー※ ³ の活動者数	492人 (H7)	603人 (H12)	790人 (H17)	1,000人 (H22)	1,200人 (H27)
子ども会指導者の養成数	748人 (H7)	1,002人 (H12)	1,281人 (H17)	1,380人 (H22)	1,480人 (H27)

※² 賛同団体などの青少年育成のための活動状況をまとめたもの

※³ 地域で家庭教育力の向上を図るボランティア



「とちぎ心のルネッサンス」シンボルマーク



「とちぎ心のルネッサンス」運動推進県民大会

期待される主な主体の役割



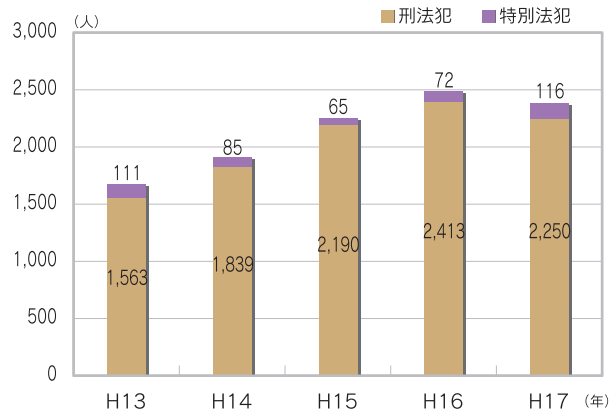
施策の目標

青少年を健全に育成できる良好な環境を整備します。

現状と課題

- 非行少年の検挙補導件数はここ数年増加傾向にありましたが、平成17年は前年に比べ4.7%減少しています。
- 刑法犯少年は成人を含めた全刑法犯の37.0%を占め、そのうち63.8%が初発型非行（万引き、自転車盗、オートバイ盗等）です。
- 特別法犯少年の中では、薬物関係違反や栃木県青少年健全育成条例違反が多数を占めています。
- 青少年に対する周囲の大人の積極的な働きかけと理解が十分とは言えない状況にあります。

非行少年の検挙・補導状況



県警察本部調べ

施策の展開

参照：第3部 P177

非行防止対策の推進

家庭、学校、職場、地域との密接な連携のもと、非行の未然防止に向けた啓発活動や補導活動を充実します。

また、悩みを抱える親や青少年に対し適切な助言・支援ができるよう、相談機能の充実と指導相談機関等の連携強化を図ります。

社会環境浄化活動の推進

栃木県青少年健全育成条例を適切に運用し、地域社会が一体となって、青少年健全育成のための良好な社会環境づくりを推進します。

- ビデオ・雑誌自販機及び関係事業所等への広域的な立入調査の実施

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

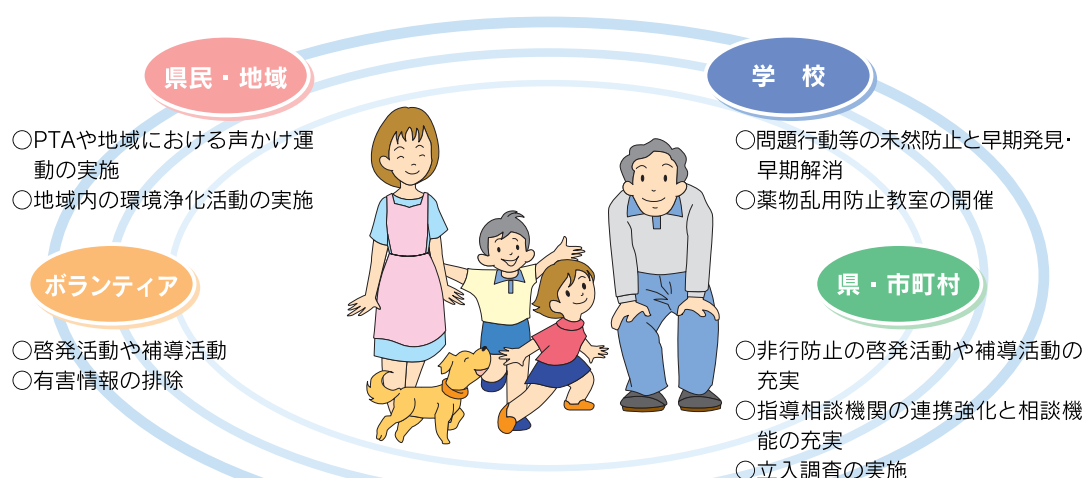
成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
薬物乱用防止啓発活動の受講者数	—	129,936人 (H13)	132,877人 (H16)	135,000人 (H22)	135,000人 (H27)
ビデオ・雑誌自販機等の立入調査実施件数	—	951件 (H12)	1,035件 (H16)	1,160件 (H22)	1,260件 (H27)
非行少年検挙補導人員数 ※1	1,794人 (H7)	1,760人 (H12)	2,380人 (H17)	2,000人 (H22)	1,500人 (H27)

※1 罪を犯した14歳以上の少年及び14歳未満の刑罰法令に触れる行為をした少年等で、警察に検挙・補導された人数



薬物乱用防止教室（薬物乱用防止広報車「きらきら号」）の開催

期待される主な主体の役割





自然体験活動

神社の境内で開かれた自然体験塾。みんなで水鉄砲を作りました。“とちぎ”では、家庭、学校、職場、地域など青少年を育成するすべての人たちが力を合わせ、県民総ぐるみで心豊かでたくましい青少年を育成していきます。



リズムスクール

「インディジャパン」の開会式典（平成17年4月）で渡辺貞夫さんと一緒に演奏する本県「リズムスクール」の小中高校生。練習の成果を十分に発揮し、明るく、楽しく“とちぎの元気”を発信しました。

政策12 生きがいとうるおいに満ちた人生を実現する

目標

生涯にわたり生きがいを持って生活ができ、豊かな心で“とちぎ”の文化を守り創造し、そして継承できる社会を実現する。

現状と課題

価値観が多様化し、さまざまなライフスタイルが志向される中で、心の豊かさやゆとり、うるおいを重視し、スポーツ、文化活動などを通じて、生涯にわたり生きがいを持って社会に参加していきたいと考える人々が増えてきています。

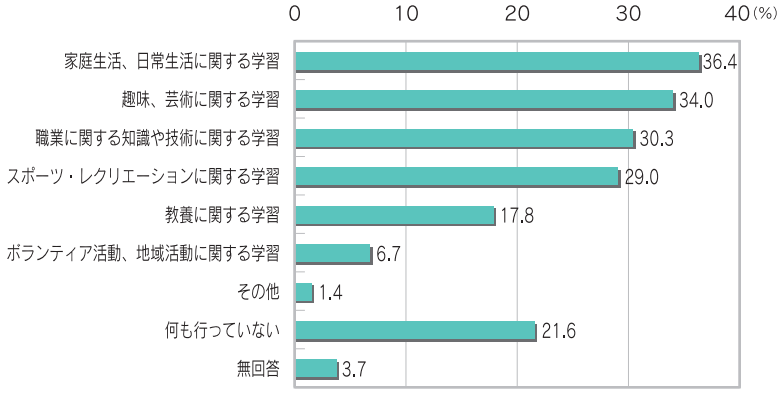
このため、これらのニーズに的確に対応した活動の場や学習機会の充実と、学んだ成果を地域社会等に生かす仕組みづくりが今後の課題となっています。

また、ゆとりとうるおいに満ちた質の高い生活を実現していくためには、人々の心よりどころである郷土の文化を守り伝え、その基盤の上に新たな文化を創造し、そして誇りを持って次の世代へ継承していくことも重要になってきています。

取組の方向

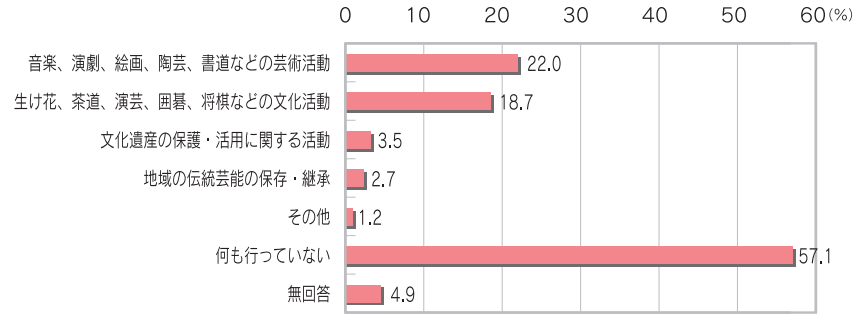
- 多様な学習機会を享受できる環境と学んだ成果を活用できる体制を整備し、生涯学習を推進します。
- うるおいに満ちた暮らしと地域社会の実現につながる県民文化の振興を図ります。
- 誰もがスポーツに親しめる環境の整備と競技力の向上を図ることで、県民総スポーツを推進します。

日頃行っている生涯学習の内容（複数回答）



資料：県企画部「県政世論調査」（平成17年度）

日頃行っている芸術・文化活動（複数回答）



資料：県企画部「県政世論調査」（平成17年度）

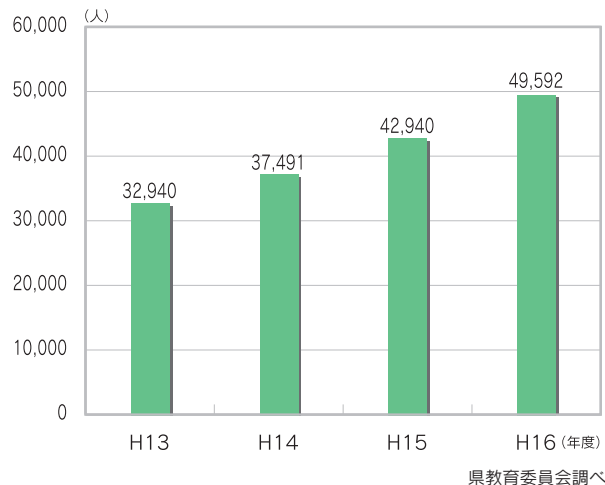
施策の目標

県民一人ひとりが、生涯を通じて多様な学習機会を享受できる環境を整えるとともに、学んだ成果を活用できる体制を整備します。

現状と課題

- 県民の学習ニーズは多様化し、生涯学習実践率は年々高まってきています。
- 生涯学習で学んだ成果を地域活動やボランティア活動に活かすことについて、県民の関心が高まってきていますが、学んだ成果を活かす場が十分とは言えない状況にあります。
- 県民の学習活動や学んだ成果を活かす活動を支援する指導者の確保・養成が十分とは言えません。

生涯学習ボランティアセンター登録者数



施策の展開

参照：第3部 P178

生涯学習の推進体制の充実

県民の生涯学習に対するニーズに応えるために、社会教育施設の機能充実や県関係機関、市町村、大学等高等教育機関等との連携を強化することにより、多様な学習機会を享受できる環境を整えます。

多様な生涯学習活動の支援

多様な学習機会の提供や社会教育指導者の計画的な養成・研修により県民の学習活動を支援します。また、学校・家庭・地域社会において、学んだ成果を活かせる仕組みづくりを推進します。

- 学んだ成果を活かしたボランティア活動等への支援
- 社会教育主事有資格者、女性教育指導者等の養成

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
県民の生涯学習実践率※1	—	73.9 % (H13)	78.4 % (H17)	82.0 % (H22)	85.0 % (H27)
生涯学習ボランティアセンター※2登録者数	—	—	49,592 人 (H16)	56,000 人 (H22)	61,000 人 (H27)
県で養成している社会教育指導者※3数	—	3,521 人 (H13)	3,876 人 (H16)	4,600 人 (H22)	5,150 人 (H27)

※1 日頃何らかの学習活動（スポーツやボランティア活動も含む）を行っている県民の割合

※2 総合教育センターと各教育事務所に設置されているボランティアに関する相談窓口

※3 社会教育主事有資格者、女性教育指導者等

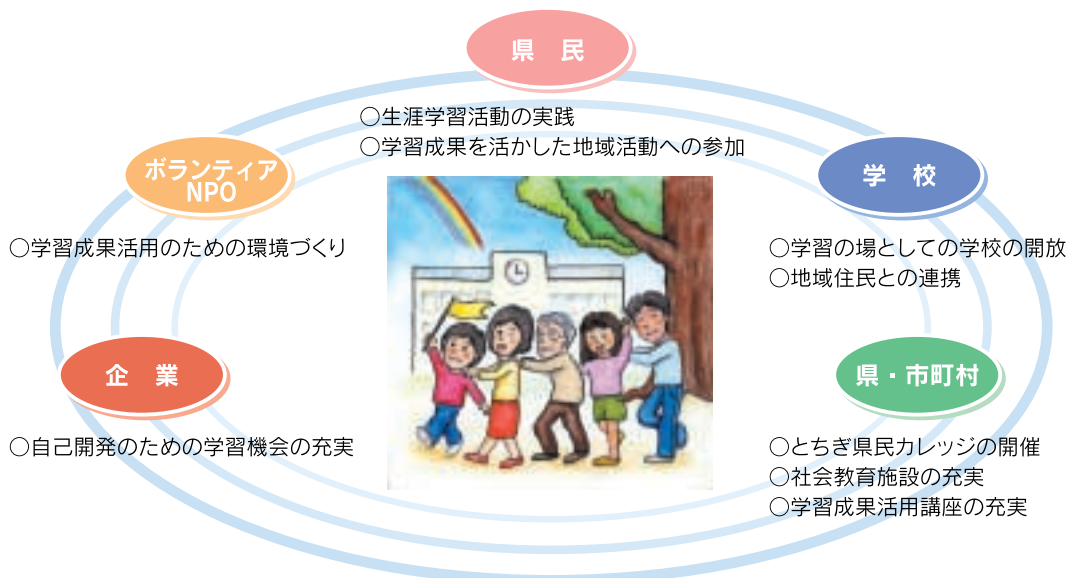


生涯学習講座



ふれあい学習

期待される主な主体の役割



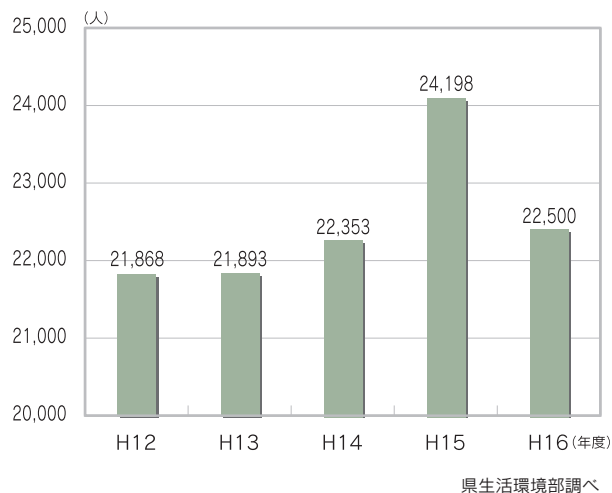
施策の目標

多くの県民が身近に文化に親しむことができる環境づくりを進め、うるおいに満ちた暮らしと地域社会の実現につながる文化の振興を図ります。

現状と課題

- 自由時間の増大や価値観の多様化などに伴い、物の豊かさばかりでなく、暮らしの中にゆとりやうるおいといった心の豊かさが求められてきており、こうした背景のもと文化・芸術に関心を持つ県民が増えてきています。
- 県内には先人から引き継がれた歴史的建造物、民俗芸能などの多くの貴重な文化的遺産が存在しますが、これらを適切に保存し、次の世代に大切に継承する必要があります。

県芸術祭の参加状況



施策の展開

参照：第3部 P178～P179

多彩な文化活動の促進

県民が文化を鑑賞、発表する機会を一層充実するとともに、文化活動を担う人材や文化団体の育成・支援を行います。

- 県総合文化センターを中心とした文化事業の充実
- 文化芸術振興のための基本条例制定の検討
- 県立美術館のリニューアル

文化財の保存・活用

世界遺産に登録されている「日光の社寺」をはじめとする貴重な文化的遺産を後世に伝えるため、文化財の保存と活用を図ります。

- 文化的遺産の調査及び国・県指定等文化財の保存・活用等への支援
- 杉並木保護用地の公有化とモデル的活用事業の推進

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
芸術・文化活動等参加率 ※1	30.2 % (H9)	43.2 % (H13)	47.0 % (H17)	48.5 % (H22)	50.0 % (H27)
県芸術祭の参加者数※2	26,266 人 (H6)	24,430 人 (H11)	22,500 人 (H16)	23,000 人 (H22)	24,000 人 (H27)
国・県文化財指定等の件数	986 件 (H7)	1,057 件 (H12)	1,171 件 (H17)	1,250 件 (H22)	1,300 件 (H27)

※1 1年間に自ら芸術活動や文化活動などを行ったことのある県民の割合

※2 文芸賞、美術展、ホール部門、茶華道展の応募者、参加者及び入場者の計

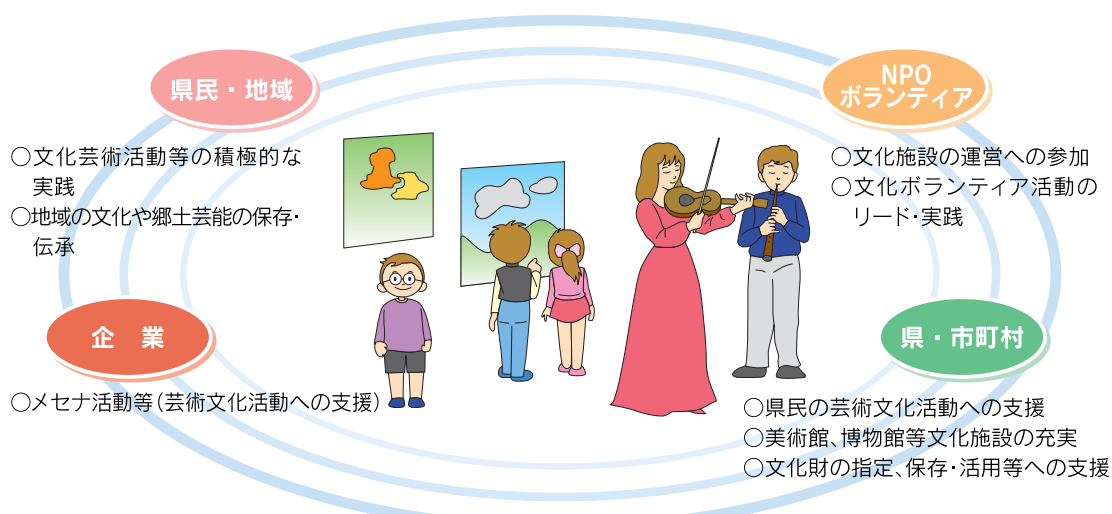


コンセール・マロニエ21入賞者による学校訪問演奏会



日光杉並木樹勢回復工事

期待される主な主体の役割



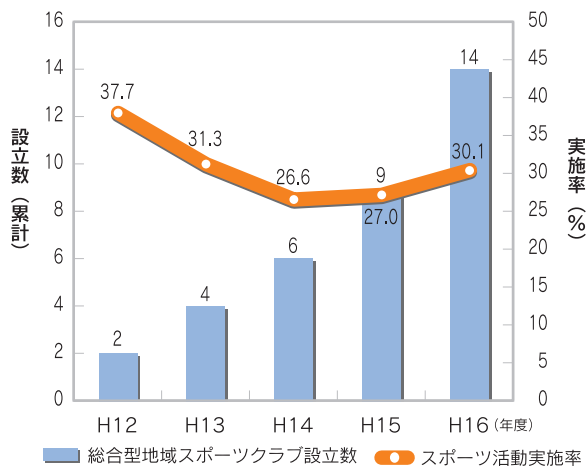
施策の目標

県民の誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境を整備するとともに、トップレベルの競技者を育成する指導体制の充実を図ります。

現状と課題

- 仕事や家事が忙しいことや機会がないことなどにより、スポーツを実施しない人が増加しています。
- 県民の誰もがスポーツを楽しむことができる総合型地域スポーツクラブ設立数は順調に伸びていますが、その育成はまだ十分とは言えません。
- 競技スポーツレベルの指標の一つである国体の順位は、長期的には低迷しています。
- スポーツ施設の老朽化等が進むなど、多彩なスポーツ活動への対応が十分とは言えない状況にあります。

総合型地域スポーツクラブ設立数及びスポーツ活動実施率



資料：県企画部「県政世論調査」ほか

施策の展開

参照：第3部 P179

生涯スポーツ活動の推進

地域におけるスポーツクラブの育成・支援などにより、県民がスポーツに親しむ機会を増やします。

- 広域スポーツセンター機能^{※1}の充実
- 「栃木県民スポーツ・レクリエーションフェスティバル」^{※2}の充実

競技スポーツレベルの向上

中・長期的視野に立った選手強化体制を整備し、トップアスリートを育成するための一貫指導体制を整備します。

- 各競技の一貫指導マニュアルの作成

公共スポーツ施設の整備促進

県民が利用しやすいスポーツ施設の整備を促進するとともに、効率的な管理運営を図ります。

- 県体育館の移転によるスポーツ拠点施設の整備検討

※1 総合型地域スポーツクラブの設立や運営、活動等を効率的に支援する機能

※2 多くの県民がスポーツに親しめるよう、平成13年から栃木県民スポーツ大会とレクリエーションフェスティバルを合わせて実施しているもの

成果指標

(施策の達成状況を見る尺度)

成果指標名	概ね10年前	概ね5年前	基準	目標	長期目標
スポーツ活動実施率※3	31.3 % (H7)	37.7 % (H12)	28.5 % (H17)	40.0 % (H22)	50.0 % (H27)
主な全国大会における入賞数	—	—	126 件 (H16)	130 件 (H22)	135 件 (H27)
公共スポーツ施設の利用者数	8,631 千人 (H6)	8,731 千人 (H11)	9,738 千人 (H16)	10,000 千人 (H22)	10,500 千人 (H27)

※3 1週間に1回以上スポーツをしている成人の割合



栃木県民スポーツ・レクリエーションフェスティバル

期待される主な主体の役割

